

謹 賀 新 年

湯 布 院

第 57 号

発行所・由布市湯布院町川上
発 行・湯布院駐屯地後援会
印刷所・大野印刷株式会社

年頭の辞



西部方面特科隊長兼
湯布院駐屯地司令
一等陸佐 三宅 優

新年あけましておめでとうございませう

皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えることとお慶び申し上げます。
昨年は十一月の記念日行事を始めとし、観桜会、納涼大会等の各種行事に多数御参加頂き誠にありがとうございました。また湯布院湯平温泉祭り、由布岳山開き祭、蟬撰祭に地域の皆様と参加させて頂くとともに御幸橋周辺での花一杯運動、若宮八幡のお祭りの中で地域の皆様と深い絆が築けていると確信しております。
我々特科隊は昨年も協同対艦攻撃及び水陸両用戦における統合火力運用の任務向上に邁進して参りました。特に、鎮西二七演習では一昨年の薩南諸島に加え、北陸の輪島周辺にも展開し、実艦艇、実航空機との訓練を通じてより実戦的訓練を積み重ねて参りました。また南西諸島の防衛体制の強化、水陸両用戦機能強化のため新たな体制移行事業にも着手し、今年には本格化する年を迎えます。
今年も我が国を守るべく、「魔」が「サル」よう、万全の準備を整え、あくなき執念を燃やしていく所存でありますので今年も宜しくお願い致します。

平成二十八年 元旦



新年あけましておめでとうございませう

皆様には輝かしい新春をお迎えのこと心からお慶びを申し上げます。
旧年中は市制施行十周年を迎えました由布市に対して皆様のご理解とご支援を賜りましたことを衷心より厚く御礼申し上げます。
我が国を取り巻く混沌とした国際状況の中で、自衛隊が国の安全保障、国際平和協力活動という任務のみならず、私たちの生命、身体、財産を守るため、その比類のない組織力と機動力により災害派遣や、国際貢献といった重大任務に日々尽力されている事は広く国民が知るところであり、高く評価されていることは確かなるものであります。更に湯布院駐屯地の皆様にはおかれましては、平素より由布市内の様々なまつり、イベントへのご協力や清掃活動、市民に親しまれる交流行事を開催して頂いておりますこと、深く感謝申しあげます。



由布市長
市 長 奉文 由藤 首

平成二十八年 元旦

新年明けましておめでとうございませう

湯布院駐屯地隊員の皆様には輝かしい新年をお迎えのこと心からお喜び申し上げます。
昨年は異常気象によるゲリラ豪雨で鬼怒川が氾濫し、家屋の屋根や電柱で倒壊を待っている人々を、的確なトリアージを行い、次々と救出する自衛隊員の姿が、日々新聞、テレビニュースで流されました。幸い大分県では大きな災害もなく、湯布院駐屯地の隊員が出勤する機会はありませんでしたが、予断なく日々の訓練を行っている姿には日々感心しております。
昨年、安保法制が成立し、これからの自衛隊員は今までの立場とは少し異なりますが、基本的には「国を守る」仕事であることに何ら変化はありません。活動の場は広がりますが、隊員が自分の命を守る行為が可能となった法整備を思っています。



湯布院駐屯地後援会
湯布院駐屯地後援会 代表
岩男 裕二 郎

平成二十八年 元旦

新年あけましておめでとうございませう

隊員及びご家族並びに地域住民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は、上級曹長として指揮官への効果的な補佐を重点に、第三の柱としての業務システムを活用し、迅速な「上意下達」「下意上達」に努めてまいりました。この間、皆様方から格別のご指導、ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。
本年は、これまで積み上げてまいりました職務の深化を念頭に、更なる活動基盤の充実を図ってゆくとともに、体制改革における部隊改編の取り組みが本格化する中において、隊務運営の重大な阻害事項である職務事故の絶無に寄与するべく、隊員指導にあたっては指揮システムとスクラムを組み、あくなき執念をもって取り組む所存であります。
結び、新年が皆様方にとりまじり良き年でありますよう、健康で多幸を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



西部方面特科隊長兼
湯布院駐屯地最上級曹長
湯布院駐屯地最上級曹長
准陸尉 板村 浩

平成二十八年 元旦



新年のご挨拶



新年明けましておめでとーうございませう

皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
湯布院駐屯地の皆様には、我が国の平和と安全を守る重要な任務をはじめ、災害派遣や国際貢献など昼夜を問わず精励されていることに対して、衷心より敬意を表します。
また、平素より当市の防災行政をはじめ、各行事にご理解、ご協力賜り厚くお礼申し上げます。平和について過去を再認識し、未来を見据える大事な年となりました。とりわけ、自衛隊の国際社会における平和と安全を確保するための取り組みは、今後さらに注目されることとなるでしょう。そのためにも隊員各位がさらに鍛錬を重ね、国防能力の底上げを果たすようご期待申し上げます。

7・11九州北部豪雨からの早期の復興を遂げたことに、改めて感謝を申し上げます。同時に、当市といたしまして、湯布院駐屯部隊との連携をより深く、市民が安心して生活できるまちづくりに取り組んでいく所存です。今後とも市政運営に対し、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



竹田市 勝次
市長 首藤

結びに本年が平和で災害派遣のない年でありますよう、あわせて湯布院駐屯地の益々の発展並びに隊員皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成二十八年 元旦

新年明けましておめでとーうございませう

皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
また、平素より当市の防災行政をはじめ、各種施策にご理解、ご協力をいただき誠に感謝申し上げます。
さて、昨年は、平成27年9月関東・東北豪雨による被害も発生しましたが、ご近年、このような異常と思われるような気象による被害が毎年のように起きている感があります。

このような状況の中で、地域の防災を担う市に課された責務はますます大きくなっていますが、実際に災害が発生した場合には、市単独での対応が困難な場合もあり、当然のことく関係諸機関との連携協力が不可欠であります。
とりわけ、大規模災害を想定した場合、自衛隊の皆様、市民が寄せる期待というものは、大変大きなものがあります。

そのような中、例年、貴駐屯地の隊員の方が、当市の防災パトロールにご参加いただき、危険な箇所を事前に確認等をしていただいていることは、誠に心強いことであり、今後ともご協力をいただきたいと思っております。

最後に、本年も貴駐屯地のさらなる発展と隊員の皆様のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げますとともに、今後とも当市の市政運営に変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成二十八年 元旦



豊後大野市 祐輔
市長 橋本

新年明けましておめでとーうございませう

皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
湯布院駐屯地の皆様には、日本の独立と平和を守るといふ崇高な任務のため、日夜訓練に精励されていることに対して、衷心より敬意を表します。
また、平素から当市行政の推進につきまして、深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

とりわけ防災行政におきましては、昨年5月の水防訓練、9月の山地機動訓練、11月の避難所運営訓練及び12月の佐伯市防災フェスタに貴駐屯地の西部方面特科隊第三三三特科大隊から多くの隊員の方々にご参加いただき大変感謝申し上げます。

特に、11月に実施した「避難所運営訓練」では、避難者の輸送、救護所開設、運営、炊きだし等多岐にわたる実践的・実践的のご支援をいただき、大変有意義な訓練となりました。避難者の輸送、救護所開設、運営、炊きだし等多岐にわたる実践的・実践的のご支援をいただき、大変有意義な訓練となりました。

九州一の面積をもつ当市においては、地震、津波に限らず土砂災害や風水害等あらゆる災害が予想されます。昨年は、7月に震度5強の地震、7月以降に3度の台風接近、上陸等による被害が発生致しましたが、近年の異常気象にともなう災害対策の重要性を再認識したところです。

現在、当市としても防災対策に鋭意取り組んでいるところでありますが、大規模災害が発生した際は、一日活発の対応にも限界があることから貴駐屯地に寄せる期待は大きなものがございませう。今後とも、当市の市政運営に対し、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、湯布院駐屯地の更なるご発展と隊員皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

平成二十八年 元旦



佐伯市 泰義
市長 西嶋

湯布院駐屯地開設59周年・特科隊創隊13周年

記念行事



訓練展示



観閲行進



観閲式



祝賀会食



観閲式



体験試乗



装備品展示



子供広場



模擬売店

また、訓練展示では、海上から侵攻する敵に対する一連の火力戦闘要領を八八式地对艦誘導弾発射機二〇三ミリ自走榴弾砲、M L R S 自走発射機、ヘリコプター(A H 1 S)、装甲車等の装備品により、どのように国土防衛任務を遂行するかその一端を理解して頂きました。会場からは各装備品の迫力ある登場に歓喜の声が上がりが、特に空包射撃では大きな音と振動に驚きながらも多くの観衆が感激していました。その後祝賀会食が行われ、御米賣や自衛隊 O B、隊員代表、日頃お世話になっている地域の方々と一緒に、駐屯地開設及び特科隊創隊記念行事を祝いました。

また、この他に、装備品展示、戦車・車両試乗、模擬売店、子供広場などを設け、訪れた来場者の方々に記念行事を満喫して頂きました。

式典には、ご来賓として元防衛庁長官の衛藤征士郎衆議院議員、前内閣総理大臣補佐官の磯崎陽輔参議院議員をはじめ、大分県議会議員近藤和義様、由布市防衛協会会長・由布市長首藤奉文様、大分県防衛協会女性部会長長衛藤まり子様、大分県隊友会会長長臨光昭憲様、また駐屯地後援会会長岩男裕二郎様等々数多くの方々に御臨席を頂きました。

観閲行進においては、観閲部隊指揮官、山口新司一等陸佐(特科隊副隊長)を先頭に、特科隊の主要装備である八八式地对艦誘導弾発射機、二〇三ミリ自走榴弾砲、M L R S 自走発射機に加え、各支援隊の整備器材、施設中隊の八一式自走架橋機等が堂々の行進を披露し訪れた観衆を魅了しました。

十一月十五日(日)駐屯地開設五十九周年、特科隊創隊十三周年記念行事を挙行了しました。

前日まで降り続いた雨も行事当日には上がり、駐屯地に訪れたご来賓及び多くの来場者は、記念行事を楽しみ心と共に駐屯地に対する意識を深めました。



感謝状贈呈式

駐屯地開設五十九周年・特科隊創隊十三周年の記念日であり、平素から湯布院駐屯地へご支援・ご協力を頂いている個人及び団体に対し、駐屯地司令より、感謝状が贈られています。

感謝状受賞者紹介

- ◆個人
 - 音島 誠 様
 - 長田 待子 様
 - 梶原 嗣子 様
 - 那須 良道 様
 - 竹下 幸夫 様
 - 大隈 亮 様
- ◆団体
 - 湯布院町
 - 乙丸一老人会 様
 - 由布市立
 - 狭間中学校 様



追悼文の奉還



備忘録

しめやかに追悼式

十一月十四日(土)湯布院駐屯地殉職隊員追悼式を駐屯地体育館において、厳粛に執り行われました。式にはご遺族、来賓及び隊員代表約三百名が参加しました。駐屯地司令は「我々は、国家防衛という御霊の尊い御遺志を受け継ぎ、今後、予想されるより厳しい任務を続けてまいります。そのためには、平素からの厳しい訓練や勤務が必要であり、常に危険と隣り合わせということになります。それ故に、二度と事故を繰り返さないため、各種の教訓事項を生かし、安全管理を徹底しつつ、あらゆる任務に対応できる実力を積み重ね、御霊が築かれた湯布院駐屯地及び西部方面特科隊の輝かしい歴史と伝統を継承していく覚悟であることを、改めてお誓い申し上げます。」と追悼の辞を述べました。

御遺族を代表して、自衛隊連族会陸上部会「わかばと会」会長牛牧光男様の謝辞を頂き追悼式を終りました。

記念行事スナップ写真



体験試乗



訓練展示



観閲式



観閲式



装備品展示



訓練展示



観閲行進



らっば音楽ドリル

鎮西FTX

防衛態勢の充実強化を図る！

西部方面特科隊(三宅 優 一等陸佐)は、十月二十三日(金)から十一月十三日(金)までの間「鎮西FTX」に参加し、健康駐屯地や日出生台演習場の他、種子島、奄美大島、沖永良部島の薩南諸島に加え、空自基地の横田基地・輪島分屯地の広地域に展開して演習に参加しました。この実動訓練の中で、対艦攻撃、対着上陸作戦(島嶼守備部隊との協同)、着上陸作戦(水陸両用作戦)、統合輸送(SSM弾薬輸送)の課目を幅広く演練し、防衛警備等計画の実効性及び部隊運用の向上を図ることができました。

特に、本演習の大きな柱である対艦攻撃においては、北陸沖の海空訓練区域を使用し航空艦隊統制下において実艦艇を目標とした実航空機との協同による訓練を実施しました。この際、対艦レーダーによる初の実艦艦艇の標定を実施する等実戦的運用を演練するとともに、海空自衛隊との協同要領について更なる深化を図ることができました。

また、火力戦闘指揮統制システム(FCCS)を使用し、海空の情報に基づき火力調整所から正確・迅速な射撃任務を各SSMRに付与する等、指揮官活動を演練し、火力調整所の運営においても貴重な成果を得ることができました。

この他、空自のC-130を使用し、SSM弾薬を初めて空輸する訓練も実施しました。今後、更に多くの弾薬を運搬する要領、或いは燃料注入した弾薬を運搬する要領についても多くの資を得ることができました。

特科隊は今後も本訓練成果を活用し、CPXでの積み上げ、海空自衛隊との検討の深化等により、更に実効性ある防衛警備計画の改善に取組み、部隊運用の向上を図る所存であります。



鎮西FTXに参加した隊員の声

「FCCSでの勤務を終えて」

第一二特科大隊第一中隊
二等陸尉 本多 亮一

日出生台演習場の地蔵原地区において、西方普通科連隊長の熱く厳しい指導が連隊上陸隊本部のCP指揮所内に響き渡る。最新の敵情報は！「艦測機関の配置はどうなっている！」「これに基づき火力の運用はどうなっている！」海岸望を確保し、島嶼の奪回部隊を揚陸掩護する任にある西方普通科連隊のCP(指揮所)内は、各科、空挺大隊のLO(連絡幹部)そして、私の勤務するFSCC(火力調整所)の要員も入り混じり、まさにそこは戦場と化していました。

「鎮西FTXにFIST組長として参加して」

第一二特科大隊第一中隊
三等陸尉 小山 晃弘

今回は、日出生台演習場において行われた鎮西FTX訓練に参加しました。本訓練は、日出生台演習場一つの島と見立てた日出生島を奪回することを任務とし、私はその中で統合火力(砲迫、艦砲及び航空機火力)の誘導に任ずるFIST組火力調整チームの1組長として参加しました。FIST(火力調整チーム)とは、第一線の普通科中隊長と火力運用に関する調整や、中隊長の任務に基づいた火力の要求、誘導等を主な任務としております。本訓練面パトラー(交戦用訓練装置)を使用し、より実戦的な戦闘訓練を実施したわけですが、彼我とも最も目立った損害は砲弾によってものも多かったように思います。私自身も敵砲弾による負傷を数回受け、身をもって第一線における迅速な火力要求と発射が任務遂行の成否を握っていることを強く実感しました。

今演習では、鎮西本番前に西方普通科連隊が実施した事前訓練に参加し、FSCC(火力調整所)と同一問題点を浮き彫りにすることが出来ました。特に「情報と火力の連携」に関して、西普連二科三科との連携が不十分だったことから、効果的な火力を発揮することが出来ず、最も警戒していたはずの友軍相撃を発生させていました。この教訓から、鎮西本番においては各種情報を火力に直結できるよう、CP(指揮所)内のレイアウトを変更し、より各科とFSCC(火力調整所)が連携しやすくすると共に、空挺大隊からもLO(連絡幹部)を派遣してもらう等、円滑な連携を図ることにし、第一線の要求に即応できる通時的な統合火力の発揮及び敵中深く潜入する艦砲機関の安全を確保した友軍相撃の極限に努めることが出来ました。

今回のFSCC(火力調整所)での勤務は、今後水陸両用作戦を実施する上で、FSCC(火力調整所)だけでなく、上級機関もSACC(ATF部隊)の火力支援調整所(勤務をする上でも大変なため)なるものであり、また、SACC(火力支援調整所)との円滑な連携を図る上でも大変勉強なるものでした。



「鎮西FTXに参加して」

第三〇二観測中隊
二等陸曹 藤原 完成

平成二十七年十月二十八日から十一月九日までの間、鎮西FTXに参加しました。

今回、私は航空自衛隊航空総隊のある横田基地で、特科隊火力調整所における火力調整チームのFCCS(火力戦闘指揮統制システム)操作陸曹として参加しました。

演習間、陸海空の協同対艦攻撃等に際し、各種命令や作戦図等をFCCS端末で作成し、火力調整所へ伝達する任務を主として行ってきました。

今回の鎮西FTXで、火力調整チームに参加することにより、これまでは経験することの出来なかつた航空自衛隊や海上自衛隊との協同連携した対艦攻撃も含め、様々なことを経験することが出来ました。学ぶことの多い、非常に充実した演習でした。

今後は、今演習での経験を活かして、FCCS端末の操作だけでなく多くていきたいと思っております。



鎮西FTXに参加した隊員の声

「鎮西FTXに参加して」

第三二特科大隊 中隊
陸曹長 塩電 智広

鎮西FTXに教訓班要員として参加し、主に水陸担当の補佐を実施しました。私は鎮西26においてFSCC要員として参加した経験があり、FSCC活動に関して何か問題点を案出できなかったという観点で参加しました。しかしながら、訓練に参加した経験だけでは問題点を案出することはできない、という途中に気付きました。日出生台演習場において、FSCC、FIST等の各所掌の現場を確認する中で、各種行動は自ら経験したこともあり理解できますが、それが本来どうあるべきなのか分らず、それら行動の準備である各種教範を事前参照する必要があると痛感しながらの教訓収集となりました。幹部候補生学校入校前に区隊長から「幹部で勉強を怠つたら、部下を死なせることになる」とよく言われた言葉も思い出しました。今後は、今回の反省を活かして実践において部下を生かすことのできる修養を積んでいこうと思います。

「FSCC島嶼派遣について」

第三〇二観測中隊
一等陸曹 宮田健一郎

今年も鎮西FTXに十月二十八日(水)から十一月七日(土)まで、西部方面特科隊の島嶼派遣ネットワーク陸曹として鉄砲伝来の地種子島に派遣された。

種子島は第一地对艦ミサイル連隊と第三地对艦ミサイル連隊及び第二高射特科団が生地展開し、自分は特科隊が使用する火力戦術指揮統制システム(FCCS)を物理的に接続し、ネットワークを構築する任務を命じられた。鹿兒島港からコスモフェリーで四時間ここは旧種子島空港跡地であり、

我々の宿営地は中央の草むらであった。しかし一晩宿営してみると、なんとムカデが多い、しかもデカイ、ドラゴンクエストのように巨大ムカデが現れた。自分の天幕にも二匹の大ムカデと一匹の子ムカデ、やがて隊員は常に四脚を警戒し、光線の早期発見に努め、ムカデ退治用の白い粉に日夜敵と戦い無事任務を完了するに至った。

さすが自衛官と感心したものの、結果種子島の素晴らしい空を見る余裕がなくならないのが残念であった。とはいえ管理面においては会計隊の現地調整によりとても快適に過ごすことが出来、食事も現地のお弁当のおかげ、名物安納芋やおみかんの差し入れ、地元の方が売店まで出していた大きな歓迎されたのは嬉しかった。最後に、ネットワーク維持構成間二度ほどトラブルがあったものの、FCCSに関しては最後まで良好な通信を確保することが出来た、地元の方といろいろな情報交換が出来非常に充実した演習であったと満足している。

「鎮西演習渉外業務を終えて」

湯布院駐屯地業務隊
一等陸尉 才川 市幸

日出生台は、明治時代から使用されている西日本最大級の演習場で、住居、牛馬を飼い、田畑を作り生活を営んでいた歴史を踏まえ、演習場使用協定が締結され慣行による採草、放牧が行われている。

本演習に先立ち、各地区を巡回して、演習に対する理解と協力の気風の醸成に努めたが、演習部隊への伝統を理解し、また、柔軟に対応してくれたいおかげで、四千名近くが集中し、約二週間続いた大規模演習であったにもかかわらず、大きなトラブルは無かった。ある日、部落上空でのヘリのホバリングによる騒音苦情が住民から寄せら

れ、急ぎ統裁部と連携し速やかにヘリを移動させたが、素早い対応にお礼の言葉もあった。

「鎮西FTX支援を通じて」

第一三四地区警務隊
二等陸尉 松本 和生

我々は、本演習支援において、事件、事故等の対応、大在港及び大分港に至る経路上における部隊移動支援及び路上警備長警護を実施し、それぞれの任務を無事完遂することができました。今年度も、残念ながら数件の事故が発生しましたが、重傷者が出なかつたことは幸いでありました。

本演習支援は、基本、基礎の徹底の重要性を改めて認識させられるものでした。発生した事故の原因の多くは、基本・基礎動作の不履行によるものであり、又被害者の命を救ったのも基本・基礎動作の履行でした。不用意な行動が時には人の命を奪い、誰も見ていなくとも悪直に行動する真面目さ、不幸な事故の被害を最小限にする

「第五地对艦ミサイル連隊同行支援に参加して」

第一〇一特科直接支援隊
三等陸曹 権藤 秀征

十月二十日(火)から十一月十日(火)までの間、奄美大島において実施された「第五地对艦ミサイル連隊同行支援」に参加しました。

今回、健康駐屯地に所在する第一〇一特科直接支援隊支援中隊に、指揮装置及び発電機整備員として配属され、同行支援を行いました。

離島における支援は初めてでしたが、実際に車両及び装備品を列地域域に展開し、離島に展開する部隊の支援を行い、離島支援における非常に有意義な経験をする事ができました。また、整備技能向上のための意見交換を実施し、整備手順や考え方についても学習することができました。今回の経験を糧に、今後とも整備技能を向上に努めていきたいと思います。

「鎮西FTXに参加して」

第一二特科大隊本曹中隊
一等陸尉 松元 宏和

十月二十六日(月)から十一月八日(日)まで健康駐屯地において西方各部隊から二十二名(湯布院から四名)で編成された視察対応班で勤務しました。

任務としては全国各地から視察に訪れられた総勢約四百五〇名の輸送・宿泊案内、健康駐屯地内の各指所及び日出生台演習場及び十文字演習場研修案内です。

目的は視察者に全体像及び各作戦を把握していただき、現段階の問題点を共有し今後の防衛力のあり方についての検討に資する事、また部外・メディアに対しては保全を完全に西方の取組みをアピールする事により国土防衛の抑止力となります。

このように崇高な任務に対応すべく班員一丸となって勤務に臨み、システムそれぞれの特徴に区分し、システマコース、離島防衛コース、兵站コース

を準備し効率的な視察に努めました。特に湯布院チームはVIP対応班に任命され、陸上幕僚長、幹部学校長の視察に対応させて頂き、師団・警務隊との連携を密に最高度の緊張感と誇りをもって勤務できました。

自衛隊に対する政府・国民の期待に応えるため、鎮西FTXは大変重要な訓練であり、参加したことにより自衛官としての使命感を養成できました。皆さんも機会があった際はぜひ熱望し、西部方面隊員としての誇りを肌で感じて頂きたいと思います。

「鎮西FTXに参加して」

第一三特科大隊本曹中隊
二等陸尉 河野 新

SSM火力とMLRS火力の連携に関する具体的な調整、そして射撃までのタイムラインについて検証し案出も学習することができました。これが今回の鎮西FTXにおける私の任務でした。これはSSMとMLRSの連携射撃によりSSMの残存性を向上させることを目的として昨年度から始まった取り組みであります。

湯布院駐屯地の一角に大隊指揮装置1台という小さな規模で実施しましたが、その指揮装置の中で各中隊の射撃指揮装置とともに奄美大島に展開しているSSMのIコ中隊と連携しながらシステム上における検証、射撃の要領、目標の授受要領について全員で知恵を絞り頭を汗をかきつつ検証と議論を交えながら訓練を実施しました。各中隊の射撃指揮装置のシステム上の技術的な意見や連携したSSMの協力による連携射撃について一案を案出することができたことは大きな成果であり、今後更に深化させるため引き続き知恵を絞りつつ努力していこうと感じました。

「お詫びと訂正」

前号のご出産おめでとうの記事で「第一二特科大隊 三曹 板利良宏(長女・陽愛)と記載していましたが、正しくは(長男・悠貴)でした。訂正してお詫び申し上げます。

未成年から申年へバトンタッチ 羊男の抱負



【思いやり】
新年明けましておめでとうござい
ます。
今年も、私にとって、自衛隊生活
最後の年男を迎える年であり、ま
た、入隊三十年、そして、結婚二十
五年の年でもあります。
先ずは、これまで二十五年間支え
てくれた妻に感謝したいと思いま
す。
妻は、出産や子育てに奮闘する時
期、入校・単身赴任そして国際展開
等と不在することが多かった私に
何の不満も言わず、家庭をしっかりと
守ってくれました。
また、これまで、良き上司・先輩
後輩そして同期に支えられ充実した
生活を送ることが出来たと思いま
す。
「陸曹は自らが汗を流して後輩を
引き連れていけ」と良き先輩から賜
った言葉は厚右の路であり、今後も
これを忘れずに残りの自衛隊生活を
送りたいと思います。
の最後になりましたが、年男として
の抱負は、「思いやり」です。
公私共に楽しく日々を過ごすため
にも「思いやり」の精神で「一歩一
歩着実に進みながら良い年にして行き
たいと思います。」

【三〇〇目標】
新年明けましておめでとうござい
ます。
今年申年を迎えることで、早くも
二度目の年男となります。私は、年
男という年で、三〇〇目標を掲げ、
頑張りたいと思います。
まず、一点目は、仕事についてで
す。去年私は、自衛隊という職業に
もだいぶ慣れ、少しずつですが知識
や技術を身につけることができた
と思います。しかし、上司や先輩からの指示
を待つことが多く、積極性に欠け
ていたので今年からはチャレンジ精神

【覚悟】
年男の歳、自衛隊に入隊し、今年
自衛官として二度目の年男を迎えま
した。これまで様々な経験を重ね、
また今ある立場を考えると、今年も
一つ一つの場面で反省を活かし、
「覚悟を抱負します。覚悟を決め
る上で大事なのは心構えであり準備
であると思います。これまでは、若
さ故に自らの力量を考えず行動する
ことが多々あったように思えます。
勿論、それに至るまでに万全の準備
をして臨んでいたのですが、突然の



申

【三〇〇目標】
今年で三十六歳、三回目の年男を
迎えました。思い返せば、中隊配属
二任目で自衛隊を辞め、「と
断言し、同期や先輩方々から「陸曹
候補生の一次試験も合格せんやつが
自衛隊を辞めて動くんか」と激
しく責められ、二次試験に合格したら
絶対に自衛隊を辞めてやる」と反発し
ていきたくと思っています。
第三〇〇観測中隊
陸士長 榎屋 裕太



2016 Year

三回目の年男を迎えて

今年で三十六歳、三回目の年男を
迎えました。思い返せば、中隊配属
二任目で自衛隊を辞め、「と
断言し、同期や先輩方々から「陸曹
候補生の一次試験も合格せんやつが
自衛隊を辞めて動くんか」と激
しく責められ、二次試験に合格したら
絶対に自衛隊を辞めてやる」と反発し
ていきたくと思っています。
第三〇〇観測中隊
陸士長 榎屋 裕太

新成人20歳の抱負

【考える】
私が、成人を迎えるにあたって
の抱負は、自ら考えて任務に
あたるといことです。
これまでの私は、指示された
ことに精一杯で、ひたすら言
われたとおりに動くだけであ
りました。しかしながら、私の先輩方
は如何なる任務を付与されて
も、その目的や効率の実施要
領を考えて私たち後輩隊員を指
揮してくれました。そのおかげで

【二十歳を迎えて】
私が二十歳を迎えて思うことはし
つかりとした「大人」になること
です。私は高校を卒業後すぐに自衛隊
に入隊し、今年で二年目となりま
した。私にはまだ大人になれな
かったけれど、大人にならな
いままに立派な大人になったか
と自分に問いかけてみました。私はお
世帯にも仕事が出来た方とは言え
ません。人間性もまだまだ未熟で
す。何をしても周りの人の手
助けや助言などを貰ったがり、私一人
ではできない事ばかりです。二十歳
になり形式上は大人になれたかも知
れませんが、私自身は大人の定義と
は、社会に出てお金を稼ぐこと、二
十歳を迎えることではなく、困難や
問題に對峙した時、自分で考え自分
の行動に責任を持つて乗り越え、そ
してよりよい人間になれるのでなく誰か
らでも頼られる人のことだと思
います。
今はいまだ大人になりきれないま
せう、いつか私も理想とする大人に
なれるよう日々精進していきたいと
思います。
本部中隊
陸士長 山下 悠生

みんなの投稿広場

【二十歳を迎えて】
私が二十歳を迎えて思うことはし
つかりとした「大人」になること
です。私は高校を卒業後すぐに自衛隊
に入隊し、今年で二年目となりま
した。私にはまだ大人になれな
かったけれど、大人にならな
いままに立派な大人になったか
と自分に問いかけてみました。私はお
世帯にも仕事が出来た方とは言え
ません。人間性もまだまだ未熟で
す。何をしても周りの人の手
助けや助言などを貰ったがり、私一人
ではできない事ばかりです。二十歳
になり形式上は大人になれたかも知
れませんが、私自身は大人の定義と
は、社会に出てお金を稼ぐこと、二
十歳を迎えることではなく、困難や
問題に對峙した時、自分で考え自分
の行動に責任を持つて乗り越え、そ
してよりよい人間になれるのでなく誰か
らでも頼られる人のことだと思
います。
今はいまだ大人になりきれないま
せう、いつか私も理想とする大人に
なれるよう日々精進していきたいと
思います。
本部中隊
陸士長 山下 悠生

強い意志を持つ

私は二十歳になるにあたって抱
負が二つあります。
一つは責任を持つて人間になるこ
と、もう一つは今よりも自立できる
大人になることです。このことには
それぞれ理由があります。
まず一つ目は責任を持つて人間に
なることです。二十歳になり
喫煙や飲酒という今まで未成年で出
来なかった事が増えます。そのため
自由の幅が広がりますが、その反面で今
まであまり感じられなかった責任が
かかってきます。一つ間違えば誤
った道に行ってしまうため、自分の
強い意志を持つことが重要となつて
きます。自分の発言や行動に責任を
持ち、自分の意志で物事を決め、任
されたことは責任を持つて出来るよ
うに精進していきたいです。
二つ目は今よりも自立できる大人
になることです。私は社会人にな
り、多くのことを経験する機会が増
えました。自分にとっては自分でやら
ないといけないため、私を育ててく
れた両親が多々ためだれで私が大変だ
たということが実感できるような
金銭管理でも欲しい物があつたら
買えば良いという訳でなく、将来を
見据えてしっかりと自分で貯蓄して
いくことが大切になってきます。
生活面でも精神面でも自立して、
胸をはれるような大人になれるよう
に努力していきたいです。
これからは、失敗しては山の人に
迷惑を掛けることもあると思いま
すが、過去の失敗や成功を活かして、
同じ失敗を二度としないように心掛
け、色んな人のいい所を吸収して人
生の糧にしていきたいです。
第三〇〇観測中隊
陸士長 小野 功輔

【目標を見据えて】
私が成人を迎えるにあたって思う
事は、自立する行動をとり、社会に
貢献できる大人になる事です。社会
で自立する行動とは、次の行動に移
る前に物事をよく考え、次に何をし
たらいいの理解するとともに、そ
の行動がどのような影響を与えるの

見た目は大人、 中身は子供

気が付けば早二十歳を迎え、大人の
仲間入りをしています。まだまだ
その実感がなく、心はまだ十代で
なり。初めの成人としての抱負
を真剣に考えます。
まず、一日一日を大切に過ごすこと
をこれから続けていきます。夢や目標
を定め、日々努力を続けて、タラタ
ラとした無駄な一日を絶対に過ごさ
ないように心がけます。そして、毎日
自分の成長を実感できるようにした
い。これに合わせて、これからは自分
のことができて、周りのことにも気
遣うことができるようになりたいと
思っています。
第三〇〇観測中隊
陸士長 藤田 守

【三〇〇目標】
今年で三十六歳、三回目の年男を
迎えました。思い返せば、中隊配属
二任目で自衛隊を辞め、「と
断言し、同期や先輩方々から「陸曹
候補生の一次試験も合格せんやつが
自衛隊を辞めて動くんか」と激
しく責められ、二次試験に合格したら
絶対に自衛隊を辞めてやる」と反発し
ていきたくと思っています。
第三〇〇観測中隊
陸士長 榎屋 裕太

【三〇〇目標】
今年で三十六歳、三回目の年男を
迎えました。思い返せば、中隊配属
二任目で自衛隊を辞め、「と
断言し、同期や先輩方々から「陸曹
候補生の一次試験も合格せんやつが
自衛隊を辞めて動くんか」と激
しく責められ、二次試験に合格したら
絶対に自衛隊を辞めてやる」と反発し
ていきたくと思っています。
第三〇〇観測中隊
陸士長 榎屋 裕太



三〇〇目標



春風コンサート(3.14)



駐屯地・特科隊安全祈願行事(1.9)



駐屯地成人行事(1.8)



訓練始め(1.6)



湯布院温泉まつり(5.17)



アイアンフィスト15(1.19~3.7)



湯布院温泉まつり(4.19)



隊武義走競技会(2.12)



第132特科大隊訓練検閲(6.1~4)



田布岳山開き(5.10)



自衛官候補生入隊式(4.4)

プレイバック2015



駐屯地納涼大会(8.4)



第302観測中隊訓練検閲(6.1~4)



ロケット部隊年次射撃訓練(6.15~7.3)



修観会金融団ボランティア清掃(7.11)



湯布院盆地まつり(8.15)



曹友会花いっぱい運動(7.30)



佐伯サマーフェスタ(7.20)



水陸両用履修前教育(8.24~10.2)



水陸両用履修前教育(8.24~10.2)



水陸両用履修前教育(8.24~10.2)



日出生台演習場定期整備(10.13~10.23)



湯布院中学職場体験(9.29~10.1)



隊らっぴ競技会(9.8)



若宮八幡社秋祭り支援(9.12・14)



ゆふいん盆地SPA健康マラソン支援(9.6)



駐屯地記念行事(11.15)



防災九州ブロック訓練 佐伯市(11.8)